

令和6年度 包括的公表

	発生年月	発生場所	事故の概要	再発防止策
1	2024年4月	内視鏡室	肝嚢胞ドレナージ術翌日、サポートチューブが嚢胞内に存在していることが判明し、ドレナージチューブごと抜去した。	ドレナージ実施時に、ガイドワイヤー、サポートチューブの形状を確認する。
2	2024年8月	救急外来	めまいにて救急搬送され、検査結果から帰宅としたが、放射線科よりレポート作成時脳梗塞の所見連絡あり、入院となった。	指導医は、研修医の診察内容を確認すること徹底する。
3	2024年10月	外来	患者へ十分な説明なく、抗凝固薬を中止したところ、血栓症認め入院となり、抗凝固薬再開となった。	治療に関してはリスクも説明し、患者が納得し同意した上で行う。
4	2024年10月	病棟	重症新生児仮死の入院後、低体温療法準備時に専用の材料がないことが発覚し、他院へ転院搬送となった	材料の定数変更、臨床工学室にて毎日点検する
5	2024年11月	外来	胸部CTにて肺腫瘍判明し、過去の画像を確認したところ、3か月前のX-Pにも異常陰影があったことが判明した	X-Pをオーダーした医師は画像を確認を徹底する。
6	2024. 12月	病棟	心電図等モニターの外れに気づき、訪室した際、ネーザルハイフローが外れ呼吸停止の状態で見られた。	テクニカルアラームを減らし、アラームに速やかに対応する